

流店

唯心山の東側には、大名が庭園を散策する際の休憩所として利用していた流店があります。現在の建物は 1934 年に水害を受けて復元されたもので、1945 年の空襲を免れた数少ない建造物の一つです。

一階の壁は四方に渡って完全に開放されており、二階建ての建物の中を流れる小川にまたがっています。これは日本庭園には珍しい光景です。小川の中には、大きさや色の異なる 6 つの石がアシンメトリーに配置されており、建物の中を流れる水を優雅に導いています。小川の両岸にある大きさの異なる床材や、外側は丸みを帯び、内側は角張っている建物の柱の輪郭など、他にも対照的な要素の調和が見られます。柱は十分に細く、優雅に縁取られた景色の邪魔にならないようになっています。視界を遮らないように、建物の中央の天井には二階へと続く昇降口がありますが、階段は取り付けられていません。

庭園内の多くの建物とは異なり、流店は毎日見学者に開放されています。暑い夏の日には、建物の中を流れるそよ風が心地よく感じられます。